

## ■訪米を終え山田理事長が帰国

8月21日（火）夕、山田理事長とこれに随行した岡本達思氏が3週間にわたる米国訪問を終えて無事に帰国しました。

今回の訪米は、福島第一原発の現状をアメリカ社会に正しく伝えるとともに、事故収束作業にあたっては若者の被曝をシニアが肩代わりすべきであり、そのためには収束作業をナショナルプロジェクトとして進めていく必要があるとの福島原発行動隊の主張を広く訴えていくことを目的としたものです。

現地での滞在にあたっては、福島第一原発の現況を懸念する人々が設立した現地活動団体“Fukushima Response”が全面的に協力してくれました。

山田理事長は3週間にわたる滞り期間中にアメリカ西海岸と東海岸の諸都市で十数回にのぼる講演を行ったほか、米国議員のスタッフとの会談やメディアとの会見などを精力的にこなし、各地で大きな共感と反響を呼び起こしました。

福島原発行動隊は「福島原発事故の収束にシニアの力を！」の呼びかけを広く全世界に訴えていくために国際的なネットワークをさらに広げていくことを検討しています。また原発事故収束作業に私たちを受け入れるように求める署名活動を国内外で展開していく予定です。



米国訪問日程と滞在地



ユキア市での講演会 (7/30)



サンフランシスコでの議員スタッフとの会合 (8/1)



イスラム教会での講演会 (8/12)



ワイデン議員スタッフとの会合 (8/8)



地元テレビ局の取材 (8/11)



著名なロビイスト松村昭雄氏と会談 (8/13)



ロスでの記者会見 (8/17)

## ■環境省の除染等業務講習会（無料）のご案内

環境省が表題の講習会を開催します。行動隊は川内村などで住宅内のモニタリング・清掃・除染活動を予定しています。講習会の内容は除染に関する全般的な話が主ですが我々の活動にも参考になります。東京近辺にお住まいで時間の余裕がおりの方はぜひご参加ください。申し込みは下記のWebサイトから。

[http://josen.env.go.jp/kousyuukai/kousyuukai\\_01.html](http://josen.env.go.jp/kousyuukai/kousyuukai_01.html)

なお、一組織数名の制限があるようですので、福島原発行動隊以外の団体にも所属されている方はそちらの名前をお使いいただければと思います。

日時：2012年9月12日（水）10：00～17：00（休憩時間 12：00～13：00）  
 会場：（財）全電通労働会館 全電通ホール（東京都千代田区神田駿河台3-6）  
 定員：400人／受講料無料  
 申込締切日：9月10日（月）12：00

## ■かわうち復興祭2012に参加しました

8月12日から14日までの3日間、福島県の川内村でかわうち復興祭2012が開催され、福島原発行動隊から行動隊員と賛助会員あわせて18名が参加しました。

福島原発行動隊は、避難先から川内村への帰還希望者への協力として、帰還先住居内の清掃・除染・モニタリングのためにボランティア作業員を村に派遣する計画を進めています。今回の復興祭への参加はこの支援活動の広報と川内村村民の方々との交流を目的として行われたものです。

祭りの主会場は村の公共施設「かわうちの湯」前の広い駐車場で、大きな舞台の両側に約40張りのテントが設置されて、さまざまな団体がブースを構えていました。

福島原発行動隊は2張りのテントを借り、画家の杉山百合子さんと松原容子さんの似顔絵コーナーと、写真家の宮城寛明さんの肖像写真コーナーを設けました。行動隊のブースは家族連れに人気があり、多くの地元の方々との交流する貴重な機会となりました。

12日と13日の午後には舞台上昇り行動隊の活動を説明する機会が与えられました。また行動隊の紹介パンフレットを持って各ブースを回ったり、役場や商工会の関係者と懇談したりして行動隊のアピールに努めました。



似顔絵コーナー

## ■檜葉町の町役場を訪問しました

8月27日（月）、塩谷副理事長以下2名が、いわき市に避難している檜葉町役場を訪問しました。役場からは松本幸英町長、宍戸陽介副町長、青木洋・放射線対策課長が対応しました。

檜葉町は去る8月10日に警戒区域が解除されて避難指示解除準備区域に指定され、住民は宿泊はできないものの自由に入りができるようになりました。町では2014（平成26）年の帰還をめざしており、これにともない、個人住宅内の清掃・除染・モニタリングの需要が高まるものと予想されます。

この面談で塩谷副理事長は、行動隊が川内村で行おうとしている個人住宅内のモニタリング・清掃・除染作業について説明し、意見を交換しました。町役場の側からは、川内村で作業が始まったら是非見学させて欲しいとの要望が出されました。



水洗設備が使えないため、檜葉町の役場には仮設トイレが設けられていました（写真左）。右の写真は町役場が用意した貸出用の線量計。

## ■原発ウォッチャー月例報告（2012年7月分）

	東電HPの内容要旨	原発ウォッチャーの所見
原子炉冷却の状況	(1) 1～3号機は冷温停止状態を維持。(2) 冷却水管路の短縮を検討。(3) 低濃度汚染処理水タンク増設中。(4) 多核種除去装置建設中(上期末完予定)	(1) 冷却は不安定。(2) 管路の堅牢化と短縮が課題。(3) 地下貯水槽の安全性疑問。(4) 多核種の除去後、構内散布、系外排出の合意を求める動きが出てくるか
使用済み燃料プールの状況	(1) 全機、共用プール共に安定冷却状態。(2) 4号機燃料プールフロアの瓦礫撤去完。(3) 4号機プール内新燃料2本を取出。(4) 3号機は瓦礫撤去作業中。1・2号機は高線量下にあり無人調査計画中。	(1) 安定した冷却継続が最優先。管路・ポンプ・電気系統の維持に注目する要があり。(3) 新燃料の取出しはデモンストレーションか。(4) 1・2号機の建屋補強、プール瓦礫処理要注目
燃料デブリの取出しと廃炉計画	(1) 準備作業の建屋内除染、漏洩箇所の特定のための無人調査段階。(2) 原子炉の解体・廃炉は調査段階	(1) ロボットによる調査の限界注目
構内環境の状況	(1) 作業員通路を優先して除染計画調整。(2) 瓦礫・伐採木等の減容貯蔵計画検討。(3) 汚染水処理廃棄物長期保管方法検討。(4) 遮水壁・海底土被覆・海水浄化の実施	いずれも第1期(2年以内)に実施可能な課題で同時進行が望まれる。
作業員の状況	(1) 高線量被曝社員の配置転換を実施。(2) 協力企業作業員の地元雇用率は約60%。(3) 線量計不正使用の再発防止策を実施。(4) 作業員の環境意識調査実施、改善要望多数。(5) 6月の外部被曝者5797人、Max12.11mSv(前月より漸減傾向)	(1) 作業員不足の情報あるも実態不詳。(2) 線量計不正使用、違法派遣など雇用状況の歪が顕在化。多層下請けで過半の人員費が管理費となる事態が改善されるか(4) 作業員の不満の直接聴取と対策提示は歓迎できる。(5) 数年後の被ばくが問題
中長期ロードマップの改訂	7/30定例運営会議の結果報告と共に、昨12/21発表の「中長期ロードマップ」が改訂	第一期(2年以内)の具体化・細密化が中心。8月末にWGの検討結果報告予定

## ■2012年8月1日から8月31日までの主な活動内容

米国訪問(講演、米国議員スタッフ等との会談、各種メディア対応)	7/28-8/21	サンフランシスコ、シカゴ、ワシントン、ニューエラウエア、ニューヨーク、ロサンゼルス
川内村支援活動:「かわうち復興祭2012」	8/12-14	福島県川内村
第46、47、48回SVCF連絡会	8/17, 24, 31	SVCF事務所(東京・北区)
米国訪問に関して記者発表会	8/27	自由報道協会(東京・千代田区)
檜葉町役場いわき出張所訪問。松本幸英町長と面談	8/27	福島県双葉郡檜葉町